

中国山東省から強制連行された劉連仁（一九一三～二〇〇〇）は、北海道沼田町の鉱山で過酷な労働を強いられ、仲間四人とともに脱走した。戦争が終わる僅か半月前、一九四五年七月三〇日のこと、仲間とは次々と捕まり、一人残った劉さんは、

の草の根運動が起り、二〇〇二年九月一日町内若葉（旧材木沢）に碑は建立された。今年、碑建立一〇周年となる。

記念碑には町内外から多くの人たちがグループ、団体などが訪れ、その流れは絶えない。記念碑は当別町の「管理」に

思いは様々、次々と発言した。茨木のり子の詩「リュウリエンレンの物語」を読んで碑を訪れた人。日本軍の衛生兵として中国戦線で戦い、その後中国の炭鉱で七年間働いたという斎藤さん（札幌市 九〇歳）は、自身の体験から日本・中国・朝鮮は

いま、北方領土、竹島、尖閣諸島を巡って東北アジアの歴史をめぐる「かまびすしい論争」が激しさを増してきている。それぞれの国で、偏狭なナショナリズムが台頭している。日本は戦後、対米従属の傘に隠れて、植民地支配や侵略戦争の過去を直視することや戦争責任の問題を後回しにしていた。いま、そのツケが露呈してきている

女性参加者の一人は、最近、中国戦線に兵士として行った

歴史の「風化」に抗うものとして、静かに劉連仁記念碑は建っている。当時の町民らの草の根運動は、よく、こうしたモニュメントを建立してくれたと、その見識に感服する。記憶は薄れてもいく。記憶は記録されなければならぬ。そして、記念碑は厳然として在る。それが一つの強力な

内科 救急当番医

9日(日)勤
10日(月)と
11日(火)堀
12日(水)堀
13日(木)近
14日(金)堀
15日(土)堀

堀＝堀江病院(22-3111)
近＝近藤医院(23-2021)
勤＝勤医協当別診療所(23-3010)
と＝とうべつ内科クリニック(22-1313)
さ＝さわぎき医院(25-2055)
ス＝スウェーデン通り内科循環器科クリニック(25-3151)



劉連仁記念碑を巡る ツアー一行、当別へ！



劉連仁記念碑の横には、劉さんの故郷山東省高密県から持ってきた朝顔が「伝える会」の会員たちによって大切に育てられている

歴史の「風化」に抗うものとして、静かに劉連仁記念碑は建っている。当時の町民らの草の根運動は、よく、こうしたモニュメントを建立してくれたと、その見識に感服する。記憶は薄れてもいく。記憶は記録されなければならぬ。そして、記念碑は厳然として在る。それが一つの強力な



若葉会館に移動したツアー一行は、「伝える会」の会員と交流昼食会をもった。参加者それぞれの思いのこもった発言が続いた。

旅システム（札幌市）が企画する「平和と教育を考えるツアー」一行二十二名が、九月二日（日）当別町を訪れた。劉連仁記念碑などを訪れるツアーで、昨年に続いて二回目である。

それから十三年間北海道の山中をさまよったことになる。一九五八年二月九日、劉さんは当別町の山の中で発見され保護され、奇跡の生還を果たす。

生前、劉さんは当別町を三度訪れ町民らと交流した。その中から、記念碑建立

劉さん保護に立ち会った唯一の「生き証人」である木屋路喜一郎さんが病気で参加できなかったため、「伝える会」会長の三上勝夫さんが、劉さんとの交流から記念碑建立までの歴史などについて話した。

ツアー参加者も、仲良くするしかないと言った。劉さんが一九九八年釧路を訪れた時と交流したという男性（釧路市）は、釧路湿原を車で走行中、劉さんは逃亡経路が蘇ったような表情をしていた、と言った。群馬にある二つの強制連行の跡を守る運動

を増してきている。それぞれの国で、偏狭なナショナリズムが台頭している。日本は戦後、対米従属の傘に隠れて、植民地支配や侵略戦争の過去を直視することや戦争責任の問題を後回しにしていた。いま、そのツケが露呈してきている

領土を巡る問題は、話し合いと交渉でしか解決できない。その時、過去の植民地支配の歴史を切り離し不問に付すことは出来ないだろう。「足を踏まれた」痛みを忘れる！と踏んだ側が言うべきではない。

その上で初めて、歴史的事実に基づき冷静な話し合いが可能となる。鳩山由紀夫元首相の東アジア構想は間違っていない。日本、中国、韓国、北朝鮮は「共存」していくしか生きる道はないのだから。

「磁場」を作って、心ある人たちが新しい世代に、その記念碑の意味が語り継がれ、伝えられて持続していくことが、未来の平和な東アジアの構築に寄与していくことになる。その意味では、このツアーに、若い世代を取り込むことが大きな課題である。

「伝える会」では、劉連仁記念碑建立までをまとめたパンフレットに続いて、新しい倉庫に寄り、伊達記念館を見学し、本庄陸男の「石狩川」文学碑を見て、当別を後にした。ツアーは、来年も